



須賀川二中
学校だより
1

岩瀬ヶ丘

平成27年4月10日発行
《発行者》
須賀川市立第二中学校長

平成27年度がスタート！

4月6日(月)に着任式・始業式、午後からは入学式を実施し、平成27年度がスタートしました。保護者の皆様には、今年1年間、学校教育へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。学校の教育活動につきましては、学校だよりやホームページ等を通して、できるだけ保護者の皆様にお知らせするよう努めていきます。学校だより「岩瀬ヶ丘」をよろしくお願いいたします。

218名の新入生が入学！



4月6日(月)の午後1時30分から、平成27年度の入学式を実施しました。今年度は、希望と意欲に満ちた新1年生218名が須賀川市立第二中学校に入学となりました。

緊張の中、新入生呼名では一人一人が大きな声で返事をして起立し、中学校生活への意欲を感じる事ができました。

教育委員の関根真吾様からお祝いの言葉をいただき、来賓を代表して市議会議員の本田勝善様と本校PTA会長の柳沼基様から祝辞をいただきました。心温まるお言葉をいただき、心より感謝いたします。また、新入生誓いのことばは、代表の杉原愛さんが中学校生活への期待と決意を立派に述べました。堂々としていてすばらしい内容の発表でした。新入生一人一人が、中学校の生活リズムに早く慣れ、充実した中学校生活を送ることを期待しています。

入学式の中では、知・徳・体を備えた中学生になるために、学習や部活動に励んでほしいこと。高い目標

をもって努力できる人になってほしいこと。の2つについて話をしました。



平成27年度は、
1年生218名、2年生247名、3年生197名
全校生徒662名でのスタートとなりました。

対面式を実施！

7日(火)の5,6校時に、対面式を行いました。生徒会活動や専門部の説明、部活動紹介が上級生から行われ、その後、応援団の披露がありました。

新入生が上級生の発表に興味を持って真剣に見入る姿が見られました。自分に合った専門部や部活動を選んで、精一杯活動してほしいと思います。



交通安全教室を実施！

8日(水)の5校時に、体育館において交通安全教室を実施しました。ビデオを見た後、交通安全の担当から自転車使用のルールについて説明しました。

登下校や部活動で自転車を使用する際は、交通規則をしっかりと守り、安全運転に努めてほしいと思います。また交通量の多い学区ですが、今年一年間、全校生徒が無事故で終わられることを願っています。



高校の入学式に行ってきました

8日(水)、9日(木)の2日間に、市内の高校の入学式に出席してきました。この3月まで中学生だった生徒たちが、自分の目標だった高校の制服を着て入学式に臨んでいる姿を見ると、毎年のことながら一年の経つのが早く感じられます。

中学生の皆さんにとっても、あっという間に卒業の時を迎えることとなります。毎年、思うことは「今、この時をいかに過ごすか」が大切だということです。さまざまな経験が自分自身を成長させます。何事にも新鮮な目で、貪欲にチャレンジしてほしいと思います。

12名の教職員が転入！

この度の人事異動により、新たに12名の教職員が転入となりました。早く慣れて、須賀川二中のために頑張りますので、よろしくお願いいたします。

校長	菊池	進	(西袋中より)
教諭	吉田	和枝	(英語・沢田中より)
教諭	白岩	弘之	(美術・あぶくま養護学校より)
教諭	星	哲雄	(数学・湯本中より)
教諭	佐藤	潤	(理科・船引中より)
講師	山田	洵	(社会・明健中より)
講師	佐浦	志直	(国語・湯本中より)
講師	小林	悠人	(理科・新採用)
栄養教諭	渡邊	昌子	(西袋一小より)
主事	安部	勇士	(東中より)
調理員	佐久間	美子	(須賀川一中より)
調理員	佐々木	恵	(新採用)

修学旅行に行ってきます！

12日(日)からの3日間、3年生が修学旅行(関西方面)に行ってきます。

4月12日(日)

奈良方面クラス別研修、京都市

4月13日(月)

京都市内班別自主研修、神戸ハーバランド

4月14日(火)

大阪市(ユニバーサル・スタジオ・ジャパン)

こころの窓

この4月は、入学式や入社式などがあり、今までと異なった環境に身を置く機会が多くなります。そこで出会うさまざまな人と、うまくやっていかなければなりません。自分に合う人ばかりだといいいのですが、合わない人もいるかもしれません。心の置き所をちょっと変えて生活することも大切なことです。

「こころの窓」では、心がけとして参考となることを掲載します。以下、機関誌「PHP」からの一編を紹介いたします。

さまざま

春が来て花が咲いて、初夏が来て若葉が萌えて、野山はまさに華麗な装いである。さまざまな花が咲き、さまざまな草木が萌え、さまざまな鳥が舞う。さまざま、とりどりのなればこそこの華麗さである。この自然の装いである。

花は桜だけ、木は杉だけ、鳥はウグイスだけ。それはそれなりの風情はあろうけれども、この日本の山野に、もしこれだけの種類しかなかったとしたら、とてもこの自然の豊かさは生まれ出てこなかったであろう。

いろいろな花があってよかった。さまざまな木があってよかった。たくさんの鳥があってよかった。自然の理のありがたさである。人もまたさまざま。さまざまの人があればこそ、豊かな働きも生み出されてくる。自分と他人とは、顔も違えば気性も違う。好みも違う。それでよいのである。違うことを嘆くよりも、その違うことの中に無限の妙味を感じたい。無限の豊かさを感じたい。そして、人それぞれに力を尽くし、人それぞれに助け合いたい。

いろいろの人があってよかった。さまざまの人があってよかった。